

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

79 春

連絡先

東京都渋谷区代々木二丁目二番一
婦人会館内 〒151

発行 一九七九年四月一日

今年は国際児童年

梶谷典子

今年は「児童の権利についての国際連合宣言」が採択されてから二十年。その原則を再確認し、支持することを目的のひとつとして「国際児童年」の事業が行なわれます。

「児童の権利」は十項目からなっています。特に八番目と十番目をご紹介します。社会の有用な一員となり、個々の能力を発達させるような教育を受ける権利

人種、皮膚の色、性、宗教、国民的もしくは社会的出身による差別を受けることなく、これらの権利を享受する権利

教育に性差別があつてはならないことは、二十年前からはっきりうたわれているのです。国際児童年にあたつて、共修運動もますます力強いものになければなりません。がんばりましょう！

もくじ

今年は国際児童年	(1)
集会のお知らせ	(1)
教育専門家へのアンケート結果	(2)
教科書会社へ再び申し入れ	(5)
文部省「指導書」について	(7)
東京都行動計画について	(8)
神奈川の教研に出席して	(8)
埼玉県の共修の実態と共修運動の状況	(9)
静岡からのたより	(10)
教研集会報告家庭科分科会	(11)
女子教育分科会	(12)
できごと	(12)
家庭科・学校教育と社会教育のちがい	(13)
幼児期から生活教育の共修を	(14)
世話人会報告	(15)
お知らせとお願い	(16)

集会のお知らせ

冬の号で四月二八日とお知らせしましたが、当日が春闘の統一行動の予定日となつたため一週間繰り上げます。

四月二一日(土)

午後一時半研究集会 三時半総会

ところ 婦人会館

研究集会テーマ

技術・家庭科の「相互乗入れ」をどう実践するか

これまで共学の実践をして来られた方々数名に話し合つていただきます。新しいパンフレット(16ページ参照)を参考にして下さい。

総会議題(三時半～五時)

七八年度の運動のまとめ

七九年度の運動のすすめ方

七八年度決算 七九年度予算

その他

研究集会参加費 会員200円 一般300円

教育専門家へのアンケート結果

半田 たつ子

新教育課程・学習指導要領が決まった現在、

教育学者・教育評論家の家庭科についてのお考えを知り、会の運動の参考にしたいと願って、昨春秋、一〇〇人の方を対象とするアンケートを行った。「一問一答」のパンフレットも同封して会の性格を知っていただき、回答の傾向は会報にのせるが、無断で個人の回答内容を公表しない条件でお願いしたところ、三二人の方が協力して下さいました。うち二人は「教科の中身の細かいことを知らない」ために「家庭科は男女共修がよからう」「これからは、男も家事技術を心得ていないと困る」と総括的な意見のみだったので、三〇人の方の回答をまとめた。

質問は、I～Vで、「家庭科（技術・家庭科）についてどう考えられるか」、高校・中学校・小学校の順に尋ね「改めるべきだ」と答えた方には「どう改めたらよいか」を質問し（表1・2）、その理由を書いていただいた。VIIで、「家庭科を学ぶ目的について」八つの選択肢の中から、お考えに一番近いものを選んでいただき（表3）、その補足説明もお願いした。

Ⅷで、「教育に男女差別があつてはならぬこと、性別役割分業意識にとらわれない教育をなすべきことが、国際的・国内的にもうたわれている現在、学校教育でどんな具体策が考えられるか」をお尋ねし、同時に「男女共修運動についてのご意見」もうかがった。

回答には誠実で貴重なご意見が多かったこと、家庭一般女子必修、技術・家庭科の男女別学習領域指定を「当然」とする方は一人もいなかったこと、「改めるべきだ」が、教課審委員であつた二名の方を含めて、ほぼ九〇％あることなど、特筆されるべきことと思う。このご意見が先の改訂に反映しなかったことは、返す返すも残念である。

女の差があるべきでないのは当然。教育課程の中に男女別があるのは、教育の後進性を示す指標。

Ⅱ どう改めるべきか

△男女ともに必修にV
。家庭一般は、家庭生活に関する総合的な知識・技術、生活建設の精神を養うべき、女子のみ必修では、女子自身さえ正しい認識を持つことはできない。男女共学で、それぞれの立場や条件をもとにして討論し、共同することによって、正しい認識や技術・態度を作ることができる。

△男女とも選択にV△廃止すべきだV
いずれも、「現在のような内容なら」が前提条件である。また「必修にしないと男子が選択しない」というのは、必修の理由にならない」との意見もあった。

Ⅲ 技術・家庭科の男女別学習領域指定について

△改める理由V
。基礎的な義務教育の段階で区別をする根拠はない。

。男女差の意識が生まれる時期だからこそ、共学の意義は大きい。
。女子は技術（工）領域に、男子は家庭領域

に、理解を深める必要がある、学べないのは不幸だ

Ⅳ どう改めるべきか

△技術と家庭は別な教科として共学にV
。教科としての性格・論理が違ふ。しかも男女の性差が、これにそれぞれ相応するわけがない

△技術・家庭という一つの教科で共学にV
。技術は、あらゆる職業の基礎、人間が生活する上で基礎的な能力を作り、人間性・情操を培う

（同一教科とみなす人は、技術科的家庭科観を持っていることがうかがわれた）

V 小学校五・六年の家庭科の男女共学について

△当然V

。家庭生活という現実の身近な経験に即して、人間と自然・社会、人間関係などについて、総合的認識の萌芽を育てる
。授業を参観するたびに、この教科が持つ現代的意義を再確認している

Ⅵ どう改めるべきか

△低学年から教えるべきV

。理科・社会科を一本化し、家庭科を加味した総合教科を低学年で考えるのがよい
。人のくらしがどう成り立っており、自分た

表2 どう改めるべきか（改めるべきと答えた人に）

Ⅱ 高校家庭一般 (27人中)	男女とも必修 16(59.3)	男女とも選択 7(25.9)	「家一」は廃止 1(3.7)	その他 3(11.1)
Ⅳ 技術・家庭科 (26人中)	男は技術 女は家庭 0(0)	別教科 男女共学 10(38.5)	同一教科 男女共学 13(50)	必要なし 1(3.8) その他 2(7.7)
Ⅵ 小学校家庭科 (Vで当然と答えた人も含めて 14人中)	女子だけでよい 0(0)	低学年から 8(57.1)	廃止 2(14.3)	その他 4(28.6)

表1 家庭科（技術・家庭科）について

	当然だ	やむを得ぬ	改めるべき	何とも言えぬ
I 高校「家庭一般」女子必修	0(0)	2(6.7)	27(90)	1(3.3)
Ⅲ 技術・家庭科の男女別学習領域の指定	0(0)	2(6.7)	26(86.7)	2(6.6)
V 小学校5・6年家庭科の男女共学	21(70)	2(6.7)	5(16.7)	2(6.6)

次に、各項ごとに、代表的な意見や回答の傾向を紹介する。

I 高校「家庭一般」の女子必修について
△改める理由V

。家庭生活は人間生活の重要な一環、男女の結合・協力により成立するもの。責任に男女の差なく、責任を果たすための教育に男

ちは、子供としてどうい役割を持つべきか、早期から考えるのは当然だ

(五・六年共学の家庭科を「当然」と答えた人に、「低学年から教えるより改めるべきだ」との意見が多い)

△廃止すべきだV

。あの程度のもは、家庭で母親が教えればよい。キャンプなどで十分わかっている

Ⅶ 家庭科を学ぶ目的について

△生活の科学的認識V△健全な家庭の建設V△人間としての自立Vをあげた人が半数以上である。その主な意見は次の通り

。人文・社会・自然の諸科学の成果が、現実の社会生活、日常生活にどのように具体化しているかを明らかにするところに、家庭科の独自性がある

。衣食住についての民族の知恵を理解させ、家族・家庭を、社会的活動の単位としてとらえることは、この教科の原点。それらを自然科学・社会科学の成果に依拠しながら説明すること、これらを実物・実習と結合させて、技術の学習としての意味あるものにする必要がある

。男女を問わず、人間の自立をより確実なものとするためには、自らの労働による経済的自立を持つと同時に、自らの生命を維持

していくに足る生活処理能力としての生活的自立が伴わなければならない。

Ⅷ 男女差別・性別役割分業意識を払拭するためにとるべき学校教育の具体策

次の四点を併記した人が多い。

1 全教師が、頭だけの理解でなく、自身のすべての生活態度に表していくこと。一にも二にも教師の学習、自己改善、そして教師間の連帯

2 女子高校、女子大学、特に女子短大の再検討乃至廃止。自治的活動の充実、総合学習としての「性差別」の学習、従来の枠にとられない進路指導など、一連の女子教育の振興

3 家庭科の男女共修の促進

4 父母に働きかけて、意識改革を推進すること、男女差別の根源は家庭にある

『家庭科の男女共修運動について』

。男性の参加促進

。PTAに強い働きかけを

。大学教育における家庭科の位置、カリキュラム、教育方法などを抜本的に考えさせる運動が必要、家政学中心の教員・カリキュラムはおかしい。学際的システムに改善させること

。共修家庭科の教育内容の研究

教科書会社へ再び申し入れ

学校教育においては決して教科書がすべてではありませんが、生徒児童がみんな必ず手にする教科書は大きな影響力を持つものです。教科書は指導要領に従ってつくられますから、教科書を良くするためには当然指導要領を良くするための運動を続けなければなりません。すでに決ってしまった指導要領の

とでも、できるだけ良い教科書がつくられるよう、各方面への働きかけを行っています。新しい家庭科教科書の検定基準について文部省へ要望したことは前号でお知らせしましたが、家庭科教科書をつくっている会社の社長と編集担当者に対しては、新年になって次のような手紙を郵送しました。

◎ ◎ ◎

新しい教科書の編集のために思いがしい毎日をお過ごしのことと存じます。

七月に要望書を送りして、新しい家庭科教科書では、家庭科は女子向けの教科だと思わせるような表現や性別役割分担を当然とする

1 家庭を描く場合、サラリーマンの夫と専業主婦のいる家庭ばかりでなく、共働き家庭や家業継承家庭を大いに取り上げること。

今では前者は決して圧倒的多数ではなく、それだけが正常な家庭であるかのような印象を与えることは、生徒一人一人の将来のためにも問題です。『男は仕事、女は家庭』という従来の男女の役割分担意識を強化することになります。

。自主編成をすすめるために教材資料、実践例、サンプルなどを蒐集・提起していくこと。学校の一切の学習活動において、性差別を肯定するようなやり方を省く。特に教師における差別意識・蔑視的態度を完全に払拭すること

なお、心をとめておくべき意見として「家庭科教師の既得権益保護運動に終わらないことを切望」「家庭科というネーミングが、一婦一夫制やマイホーム擁護運動に誤解される危険性がある」「片親の家庭、障害者の結婚家庭を作らない選択をした独身者についても配慮してほしい」「文化人類学や性教育学などの研究者とのタイアップも考えられてよい」「ヒステリックにならず、時間をかけて粘り強く息長く続けることが大切」などがあげられよう。ご多忙の中を詳細に記入していただいた諸氏に感謝し、ご意見を今後の運動に生かしたいと思う。

表3 Ⅶ家庭科を学ぶ目的について (複数回答)

主婦となる準備	0(0)
家事技術の習得	3(10)
健全な家庭の建設	16(53.3)
生活の改善	12(40)
人間としての自立	16(53.3)
生活の科学的認識	21(70)
技術への理解	4(13.3)
勤労の尊重	9(30)

2 家事育児をするのは女性だときめつけるような表現をしないこと

「主婦」ということばは原則として「家事従事者」「家事担当者」と言いかえてください。「母親」ということばも、特に必要な場合以外「親」「両親」「父母」「保育者」「保護者」ということばに変えてください。

3 家事に専従することを必要以上に礼讃したり、主婦・母親の就労を問題視するような表現をやめること。

現代の家庭の問題点をあげるときは、専業主婦のいる家庭の問題点(べったり育児など)と共働き家庭、家業継承家庭の問題点をともとりにあげるようにしてください。

主婦の就労について記述するときは、労働権が基本的人権であること(第60回ILO総会で採択の「婦人労働者の機会及び待遇の均等に關する宣言」参照)をしっかりとふまえた表現にしてください。

4 ライフサイクルを示す場合、従来の男女の役割分担を前提にしないこと。

育児期に仕事を中断する女性の場合だけが示されがちですが、いろいろな生き方があるということをはっきり示すようにしてください。

5 さし絵、写真等にどんな男子を登場させ、図・表、教材等も女子に関するものに片寄らないようにすること。

現在の教科書は小学校以外は女子用としてつくられていますからやむを得ないとも言えますが、これからは男子生徒が手にとって違和感のないようにしてください。特に、今の被服教材やデザインの絵等は男子をシャットアウトするようものです。

各場面に男子を登場させることは、従来の男女の役割分担意識にとらわれない教育をすすめる上でも重要なことです。

6 新しい時代に即応し、現実をしつかり把握させるような内容もりこむこと。

公害問題についての記述が少いなど、現実のマイナス面、矛盾について述べなかつたり現実を描写するだけでその社会的背景や発生要因に触れなかつたり、問題が個人の努力だ

けで解決できるかのように述べるという傾向があります。また、集団保育については必要以上にマイナス面の印象を残すような記述がみられます。こうした傾向はぜひ改めてください。

以上申しあげましたことは、私どもの考えですが、国際的な大きな動きや、国の基本方針にもそうものです。

教育基本法においても、性別によって教育上差別されてはならないこと（第三条）、男女は互いに敬愛、協力し合わなければならぬこと（第五条）が定められておりますし、現実生活に即し、文化の創造と発展に貢献すること（第二条）もうたわれております。

一九七五年国際婦人年世界会議において採択された「世界行動計画」は「家庭と子どもについて、男女の共同責任が受け入れられるためには、主に教育を通じ、社会通念を変えるためのあらゆる努力が払われるべきである」（16）と述べたあと「教科書その他の教材を再検討し、必要な場合には、社会における積極的な参加者としての婦人像を反映するようこれらを改訂すべきである」（82）と指摘しています。

「世界行動計画」を受けて、婦人問題企画

推進本部によって策定された「国内行動計画」でも、「従来の男女の役割分担意識にとらわれない教育・訓練の推進」及び「特に各学校における社会科、家庭科等関連教科及び道徳等において、新しい時代に即応した学習指導が行なわれるよう配慮する」ことが期待されています。

教科書は当然、これらの要請にこたえるものでなければなりません。十分努力してください。

貴社発行の教科書の問題点についても、別紙でお知らせいたします。新しい教科書では、このような問題が起らないよう、ご注意いただきたいと思います。

一冊づつの問題点は首都圏在住の世話人が分担してチェックしましたので、発行社ごとにとめました。

皆さまもお気づきの点がありましたら、事務局へおしらせくださいますように。もちろん、直接著者や編集者に申し入れてくださっても結構ですが。

（編集部）

教科書をよくするためには「指導書」のことも考えてみる必要があります。

文部省「指導書」について

和田典子

「指導書」とは

「指導書」は文部省が刊行している「学習指導要領」の解説書で「学習指導要領」の作成を担当した文部省の関係官が、現場の教師や専門家、行政を担当する指導主事などの協力を得て編集した政府刊行物です。

指導書は「学習指導要領」が告示される度に書きかえられたり、改訂されたりして刊行されてきていますか「学習指導要領」だけでは理解が困難であったり、趣旨がくみ取れなかつたりしないようにとの意図から、学習指導要領の全文を逐条的に解説し、具体的な説明も加えています。また、各教科及び特別活動はそれぞれ分冊として発行され、家庭科については、小学校指導書家庭編、中学校指導書技術・家庭編、高校指導書家庭編の三

冊になっています。また、発行は特定の教科書会社が担当するのが通例になっているようです。（この点についても疑問あり）

「文部省指導書」はどう使われているか
現場の教師たちが、授業の手引書として、最も親しんで使っているのは、使用している教科書の解説書である、書名も同じ「指導書」あるいは「指導資料」です。

この教科書の指導書は、教科書を執筆した担当者によって書かれ、教科書の発行会社から出版され、販売されています。各学校では次年度の採用教科書を決定すると、校費で「指導書」も買い入れ、担当教師に一部づつ配布するのが通例になっています。

教科書会社の「指導書」は、教科書と全く同じ内容編成になっていて、授業の展開から参考資料まで掲載されているという便利なものですが、忙しい現場教師にとっては片手に教科書、のこる片手に「指導書」があれば、安心して教室へ出ることができるわけです。「文部省指導書」は、これほど便利にはできていませんが、多種多様な現場を指導する立場にある行政官や、教科書を編集している教科書会社の編集部にとっては、唯一の典範になっています。

殊に、今次の改訂学習指導要領のように

「大綱的基準」を述べただけの内容では、その意図をつかむことさえ容易ではなく「説明会」などでも文部省担当官自身から「くわしいことは指導書をみてほしい」などと発言することさえあるほどです。

結局、「文部省指導書」は、学習指導要領の解説書に過ぎない刊行物でありながら現実には、各教科書の有力な編集上の指導書になっており、具体的な授業展開を直接左右する役割を果しているものということになります。

その問題点

1 学習指導要領では「大綱的基準」を示しながら「文部省指導書」は内容・方法にまで具体的な指示をあたえていて、現場の実践を拘束する結果になっていること。

たとえば技・家の内容で選択領域について「女子には食物1、2及び被服1、2まで履修させることがのぞましい」などを「指導」していることなど。

2、学習指導要領は、正規の公文書であるのに対し「指導書」の法的性格はきわめて不明確であること、しかも前述のしくみの中で事実上は拘束性を発揮していること。

などのほか、行政指導では基本的な方向づけをしているという重要な問題もあります。

各地の状況

婦人問題解決のための

東京都行動計画について

半田 たつ子

前号でお知らせしたように、東京都は78年一月二十九日「行動計画」を発表しました。都の行動計画は、第一部総論の序章で「婦人問題解決にあたっての基本理念」を、日本国民にとっての人権宣言である日本国憲法におく、としたい、第一章で「計画策定の視点」を、あくまで個人の基本的権利を尊重し、家族あるいは世帯を単位として、その限りにおいて女性の生き方を考える立場をとらないとしている点、国の行動計画に比べて一歩も二歩も進んでいます。さらに東京都における婦人問題の概況で、教育・労働・参加・家庭・健康・福祉における問題状況をとりえた上で第二部計画の課題と施策の内容に入ります。即ち婦人問題解決のため「男女平等観にたつた人間形成の推進」「働く権利の保障と職

場における男女平等の確保」「母性の保護と健康の保持・増進」「家庭生活の安定と福祉の向上」「政策決定への参加と市民活動の促進」という五つの課題を掲げ、この課題解決のための施策・事業を体系づけています。

家庭科は、「男女平等観にたつた人間形成の推進」に位置づけられ、施策名「中・高等学校家庭科における男女共修の推進」、施策概要「生活に必要な基礎的知識や技術を習得するとともに、家庭生活に対する認識を深めることは男女ともに必要である……技術・家庭科が一部男女共修となるので、学習内容・方法などの検討を行い、その円滑な実施をめざす。高等学校の家庭科については、男女の共修を目指して、そのあり方、方法などについて、検討をすすめる」と記されています。また国への要望内容に、教科書で男女平等の理念が徹底するように検討に際して適切な措置を講ぜよ、とも記されました。

翌三〇日、行動計画に意見・要望を出した団体を招き説明会があり、会から半田が出席しました。教科書は学習指導要領をもとに作られるのだから、国の指導要領について積極的に働きかけてほしいなどを要望したところ、都教育庁指導部長は「都立高校での実験結果などから、次期改訂には国に向かって要望で

きるようにしたい」と回答しました。家庭科男女共修については、婦人問題懇話会からも重ねて要望、最後に市川先生が感想の中でも触れられ、三度わたってダメ押しをしました。

中学校の男女共学

—神奈川の教研に出席して—

佐藤慶子

昨年十一月、神奈川県教委の教研集会にピンチヒッターの助言者として参加した折、中学校の共学の動向を聞いたので紹介しておきたい。集会二日目の午後、技術科と家庭科の合同分科会がもたれ、技術科教師から男女共修の実践レポートが報告された。城郷中（横浜）の畑井教諭によれば、横浜では昭和四十七、八年度より三校が共学実践を試行してきており、同校でもこれまでの研究を生かして五十三年から本格的な共学にふみ切ったとのこと。ただし、共学の対象は「木材加工」の二十四時間、「食物」の二十四時間のみ。「木材加工」の成果はきわめて良好で、全般に

女子の方がデザインに工夫がこらされ仕上げもていねいで好成績。一方「食物」の方も男子の活発な質問で生き生きとした授業にな

たと家庭科教師の感想を伝えた。同校では自信を深め、外からの見学にも積極的に応じているとのこと。

これに添えて、浜教組から報告があり、昭和五十四年度の中学校技・家科乗り入れのアンケートをしたところ五十校を対象として十一校から実施予定との回答があったという。これは横浜百校の中学校の半数を対象としているので、約二割が実施とふんでいるということである。

また、湘南からの報告が伝えられ、共学は当然の方向と認識されてきているが、①教師の授業分担を当初は技術科教師が男子系列、家庭科教師が女子系列としつつ、将来の密接化にそなえる ②したがって指導能力や免許状の改善 ③また、生徒の興味をたしかめる ④時間数不足をどうするか などを検討しつつ、全面乗り入れの方向をさぐってゆきたいとの動向である。

これらの中学校での一部共学の開始に満足するべきではないが、同会で語られた技・家科相互乗り入れの機運は、今後の中学校での家庭科、技術科の発展につながってほしいも

のたとの希望を強く感じさせられた。

埼玉県の高校における共修の実態と共修運動の状況

柴田栄子

首都東京に隣接する県として、良きにつけ悪しきにつけ大都市の影響を受けている県が埼玉県だと思えます。東京のベッドタウンとしての開発は県の奥部にまで及び、人口増加はめざましく、高校進学率の上昇と相まって毎年五、七校の新設高校が誕生しています。

また武蔵嵐山に日本初の国立婦人教育会館が建てられたのも、池袋より直通で一時間足らずという埼玉の地の利からでしょう。この会館の規模、内容はすばらしく、婦人に関する内外の図書資料を集めて研究の場とするとともに、婦人グループの研修集会の場を提供する事を目的として、国際婦人年を記念して設立されたと聞いております。

目下県では、「婦人の地位向上埼玉県計画」の策定をすすめており、昨年は県内各地で、婦人問題に関するセミナーを開催しました。こんな会では高校での女子必修の家庭科が問題にされます。一方、家庭科教員の中にも、

家庭科＝女のものという従来のイメージを変え、本来の人間の自立と解放の教育に戻るべきだと、自覚しはじめた人は少なくありません。地道な研究と実践が今はじまり、根づきつつあるという気がします。ある高校では選択の女子向男子向という枠をはずしていろいろと試み、また既に食工被工に相当数の男子を含めてやってきて数年、着実な結果をつみあげている学校もあります。家庭科室調理室に男子が入り出すことすら気恥しがするような雰囲気の中から、共修が当たり前として定着しつつある、そんなところから家庭科はぶっ飛びたいのだと思います。

しかし埼玉県には、男女別学高校の存在という大きな問題があります。別学校を認容してきた歴史の中に、家庭科の共修をはばむ背景が根強くあり、現場の学校では共修に好意的でないという現実になっていると思われま

す。県下をあげて共修に向って輪を広げようという運動は、今ひとつという感じがいたしますが、できるところから、可能なところからはじめるときだと、内容を検討し、自己の実践を持ちより相互批判し合う自主的な集まりは持たれています。こんな歩みがとどまる事なく続けられていく先に、共修を願う家庭科教師の努力が実を結ぶのだと思います。

静岡からのたより

石井 矩子
(河津町)

先日、中学生の娘が技術・家庭科に関する次のようなアンケートを持ってきました。

「生徒に必要な技術を習得させ、それを通して生活を明るく豊かにするための創造の能力・及び実践的な態度を養う」を目標に保護者の体験の中から子供に教えて欲しいと思うものを大切と思われ順に三つだけお選び下さい」として、

女子生徒
イ、木材加工 ロ、金属加工 ハ、電気 ニ、機械 ホ、栽培
男子生徒
イ、被服 ロ、食物 ハ、住居 ニ、保育

というものでした。私は、このアンケートの回答を子供に持たせてやった後、一週間経ってから、中学の技術・家庭科担当の先生に面会したく、学校に参りました。

保守的な体質を持つ静岡県の更にまだに封建色の残る一地方の町立の学校に思っている

たより早く、家庭科の男女共修への姿勢に、驚ろきもし、又よろこばしくもあって、私はどうしても、アンケートの結果を知りたく学校を尋ねたのでした。

会って下さったのは男のM先生でした。

家庭科の男女共修が男女平等の原点ではないかと考える私と少し異なる考えをお持ちのようでしたが、M先生御自身の御体験から確かに男性も家事に協力しなければならいことを感じていらしたとのことで、男女共修の問題には御理解あるように見受けられました。アンケートの結果は次の通りでした。

男子生徒
1位 食物 57人 2位 住居 36人
3位 被服 14人 4位 保育 5人
女子生徒
1位 電気 84人 2位 機械 27人
3位 栽培 19人 4位 木工 4人
5位 金属 1人

(生徒総数約300人)

男子の1位食物については、進学、又は就職で親元を離れたときというもっぱら目前の必要にせまられて、という理由がほとんどで男児を持つ親は、それを将来の家庭生活にながるといふところ迄はいつていないようです。保育の5人に変異興味がありました。

その理由は聞かれなくて大変残念でした。

女子の電気1位については、そのときの余談の一つに、電気屋さん云々云々と、ヒューズがとんだくらいで電気屋さんを呼びつける中には、小学校の先生が多いそうです。小学校には女の先生が多いですからね、というのが落ちでした。

村八分になることを恐れて、口をつぐんでいた私は、思いがけないM先生の理解ある態度に、こんな田舎町ですら、序々に変わりつつあるものを感じられました。

一方、私の近辺のお母さん達にアンケートの反応をさぐってみたのですが、全くといっていい程関心はありませんでした。この辺が「夫は外で働き、妻は家庭を守る」の考えを支持する48%……全国調査……に対する80・5%と高い静岡県人の意識の現れかと思われました。

各府県の「行動計画」は東京都のあとまできいていせんが、婦人問題に関する資料はいろいろつくられています。なかなかこった体裁のものもありますが、内容についてはあまり感心できるものはありません。学校教育の問題は殆んど無視されていて、各府県の家庭科共修に対する姿勢は極めて消極的というはかありません。もっと運動が必要です。

教研集会報告

一月二七、二八の両日、水戸市で日教組教研全国集會が開かれました。

共修の問題に特に関係が深い家庭科分科会と女子教育分科会について、その模様をお知らせしましょう。

家庭科分科会の報告

和田典子

家庭科分科会には、延約五五〇名が全国から集まり、家庭科の実践課題を中心に話し合いました。

討議の柱は

- 一、子どもの現状と当面の問題。
- 二、何のために、何を、どう教えるか(授業実践の交流と検討)
- 三、改訂学習指導要領をのりこえる自主編成について
- 四、男女共学のすすめ方。
- 五、これからの研究、運動をどうすすめる

か。

でしたが、ここでは中学校の共学に焦点をしばって報告することにいたします。

〈男女共修(共学)の状況〉

共修に関するレポートは、中学校からは北海道、山梨、長野、京都、兵庫、岡山、長崎、熊本、鹿児島、大分の10道府県から、高校も長野、宮崎が提出するなど、着実に実践の広がっていることが示されました。

特に、九州各県で取りくまれはじめたこと、中学校の共学がはじまったことは新しい動きとみることが出来ます。レポートは出ていないことも福岡、大阪、石川、埼玉、神奈川、千葉、東京、岩手でも支部教研へは報告されており、全く実施していない地域の方がめづらしくなってきたことも判りました。

もちろん、実施校の方がまだまだ少数派であることに変わりはありませんが、実施校を拠点とし、モデルとして共修(共学)がひろがることは時間の問題になってきたわけです。中学校に対して高校では、男子生徒の家庭

科選択者数増加という動きがみられました。

しかし「必修」を経験しないまま「選択」する男子生徒の中には、他教科から逃避したり、偏見をもったまま入ってくる傾向もみられることから「必修」は「選択」の欠かせない要件であることが指摘されました。

そのほか、男女別学高校や受験体制の圧力のなかでは、家庭科の共修が問題にされにくいとか、荒廃した生徒の状況から男子生徒をかかえこむ危惧が強い上、改訂学習指導要領でも全日制普通科では男子の体育と組合わせられていることが共修をはばんでいることが語られました。

〈中学校での技・家科共学の隘路〉

討議の結論としては①移行期間は共学はひかえよ、という行政指導や圧力、②一、二年での時間削減、③教師不足や学級定員の多いこと、施設設備の不足など、④技術科と家庭科との関係をどう押え、教育課程をどう編成するかという問題で一致しにくい、⑤共学の家庭科で何を教えるかについての確信がまだもてないなど、でした。

共学の実践レポートをみる限りでは技術科

幼児期から生活教育の共修を

碧海西葵

「こどものりょうりえほん」(主婦の友社刊全5冊)を企画出版した仲間の一人として、幼児期から生活教育の共修を提案いたします。4～5年前から、童話などに材を得た料理の本が若い女性や子供達の人気を集めていますが、どちらかといえばアクセサリ風で、基本的な生活知識又は技術としての料理を教えていないことが不満でした。欧米には子供向けの懇切丁寧な料理手引書が沢山あるのに、日本では装幀やイラストだけが子供向けで、そのくせかんじんの料理の説明となると大人ですらよく判らないようなはしり方なのです。テーブルに本を開いておき、それを見ながら順番にやれば極く基本的な料理が一品、5才の子どもができるようにしたい——男の子と女の子両方持った親として、特に意図したのは料理だからといって絶対女の子のためだけの絵本にしたいと思っていました。ですから私達はひらひらのエプロンを着けたカワイコちゃんをやめ、登場人物(?)は全部性別不

明の動物にしました。手先のアップはどういう訳か人間になってしまったけれども、男の子と女の子を均等にすることも考えましたが、「ままだ」と的甘さを感じてしまうことが嫌でやめました。愛らしい動物もいましたが、クールなシャム猫や現実のくらしでは料理に無縁なトカゲなどが活躍しています。

この本を作るにあたって私達は、家庭、特に台所での様々な危険を避けるための注意、髪の毛の始末や手を洗うことなどの衛生面での心遣い、できるだけ沢山の種類の食品をとるという方向での献立指導、計量や器具の選択の仕方、経験やカンを頼りにしがちな調理法を誰にでもできる容易な方法におきかえることなどを実際に子供達を試験台にして教えながら組みこんだつもりです。ねらいは簡単にまとめるなら△頭を使え△手を使え△ということでしょうか。持って生れた顔立ちとか運動神経はそう簡単には変らないでしょうが、人間が自分の頭(考える力)と五体を十分に活用し、訓練をすれば、少くとも生活能力は限りなく開発され、のびてゆくものだと私は考えています。ハンバーガーを作る為にボウルを選ぶにも、小さめのものをつかうためやりにくくて困っている例を料理指導の際よくみますが、先を見通す判断力を働か

せていないからでしょう。料理を単に女共の仕事と片付けたり、趣味的なものだとかをくくる人もいますが、一国の将来を動かすに足る知恵や判断力、応用力が実は台所での教育、それもなるべく早い内からの繰り返しによって培われることに気がついていらっしやらない。台所での能力については男女の差がある訳ではなく、私達がテストさせた子供達の場合を見ても、個々の性格や手先の訓練の度合による差があるだけで、その子の日常の行動と一致していることがよく判りました。いずれにせよ、男の子も女の子も喜んで参加し、食べることや料理することへの関心を深めたことは確かです。

「日曜日の朝ごはん」を幼ない男の子や女の子と一緒に作り、どういう風に台所でも頭を使うかを教えてみて下さい。台所で遭遇するあらゆる場面で困らない人は完全に自立出来た人、一生食いはぐれることもない筈です。自分で料理を仕上げた男の子は又、後片付けや食事時間について協力出来る思いやりを身につけ、牛肉のワイン煮込み(ブーフ・ブルギニョン)をハヤシライスと思い込んで招待主を嘆かせたり、世界中どこへ行ってもトンカツとカレーライスしか注文出来ないようなビジネスマンには決してならないでしょう。

世話人会報告

△十二月二日▽

1 小・中・高の家庭教科書の検討をしてきましたが、これを各教科書会社に申し入れることにしました。教科書の問題になる記述とその理由を書き、文部省に出した要望書などの資料を添え、新年早々に送ります。

2 「技術・家庭科の男女共学をどう進めるか」(愛称ピンク・パンフ)は実践例を中心とし、原稿の型式など更に統一を図るため十二月十一日、和田・佐藤・半田で検討することになりました。

3 四月総会のテーマについて、前回の世話人会と同様「技術・家庭科の相互乗り入れをどうすすめるか」がよいという声が高く適当な講師の方を考えておくことにしました。

4 家庭科の教科書について、市川さんにぜひ国会で取り上げていただくようお願いしようということになりました。

(半田たつ子)

△十二月十三日▽

。54年度の会費は現行維持、督促しても長期未納の場合は会員扱いをやめる。

。大学生を正式会員に勧誘するにはどうしたらよいか。(大学別のリストをつくるなど)

。出版労組との会合は来年二月はじめのウィーク・デーを予定。

。次の集会は五十四年四月二十八日(土)

。内容は中学の技術・家庭について

。(その後一ページのおしらせのように二十一日に変更)

。その他の集会
教研集会、1・20雇用平等法の集会への出席

。家庭科なぜ女だけ?の売上げ一般会計に入れる。

。以上を会報と名簿の発送作業を続けながら話し合った。

つづいて18時半から忘年会にうつり、市川先生も参加、姫路から香川先生も来られ、楽しい一夕を過ごしました。

(嶋田道子)

△二月三日▽

。総会、集会のテーマと拍務を決定

。作業が遅れていたピンク・パンフは二月中

にでき上ることにきまり、続いて高校のための新しいパンフレットの準備にかかることにしました。

。十一月に発送の教育専門家あてのアンケートを皆で読み、まともな会報春の号に載せることにしました。

。会員名簿にもれてしまった方があるので、個々におわびの上、もれた方とその後入会された方のお名前を別に印刷することにしました。

。事務局は当分婦選会館に置くことを確認、事務作業のすすめ方について多少手順を変えることにしました。

。運動のすすめ方について次のように話し合いました。

。一般的啓蒙の時代は過ぎ、各地で具体的に共修をすすめるための活動をすべきだが、実際に何が出来るか——

。各地に相談センターのようなものができればよいが今のところは無理。

。郵便で相談を受けることにしては——

。会員からの便りが少く、一方的に会報だけ送っているような気がする。何となく連帯感不足のようだが——

運動のすすめ方、連帯感を増す方法についてどうぞご意見をおしらせください

(梶谷典子)

☆ 七九年度会費をどうぞ

新しい年度になりますので会費をおおさめください。諸物価はシリシリと上っていますし、郵便の値上げを伝えられています。何とか今年も年二千円ががんばります。

納入は郵便振替（東京九・一九一八九一）をお願いします。「七九年度会費」とお書きこみください。

なお、長期未納の方には会報をお送りできなくなりますので、必ずお納めくださいますように。

カンパはいつでも、いくらでも大歓迎ですが、やはり郵便振替（カンパとお書きこみください）か、50円または10円の切手でお願いたします。

☆ 新しいパンフレットができました

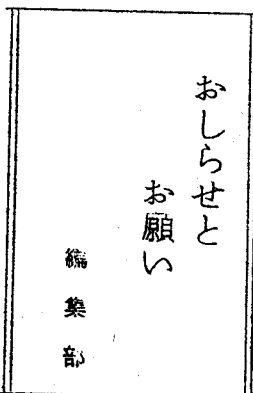
たいへん遅くなりましたが、パンフレット「中学校技術・家庭科の男女共学をどうすすめるか」ができました。内容はじめにお知らせしたものと少し変わりましたが、B5判33ページ、かわいいピンクの表紙です。四月二十一日の集会では、さっそくこのパンフレットを使って研究をすすめることにしました。

した。

お入用の方は、郵便で事務局までおしらせください。定価300円、送料140円です。

☆ 高校のためのパンフレットもつくりま

す。高校新指導要領のもとで共修をすすめる上の参考にしていただくために、更に新しいパンフレットをつくることにしました。こんな内容にしてほしいというようなご希望、ご意見をお寄せください。また、よい実践例などご存じでしたらおしらせください。



☆ 黄パンフ、赤パンフもご利用ください

黄色い表紙の「家庭科の男女共修をめぐる一問一答」（改訂版）は、共修の問題についての基本的な疑問に答えるかたちをとったもので、生徒、父母、一般の方々にひろく読んでいただきたいパンフレットです。B6版36ページで定価100円送料60円。地域で積極的に売ってくださいますように。

赤い表紙の「男女共修の家庭科で何を教えるか」は、中学・高校での実践例を中心に編集したもので、現場で参考にしていただいています。B5版33ページ定価200円送料140円。

☆ 「家庭科、なぜ女だけ」も増刷されています

共修運動の経過をまとめたドメス出版発行の「家庭科、なぜ女だけ」は、好評で増刷されましたが、お申し込みは左記へお願いします。定価は1700円、送料160円です。

東京都豊島区駒込一―三五―二 〒170
振替東京八―四八七六六
電話〇三―九四四―五六五一

ドメス出版

☆ 共修の問題について相談をお寄せください

共修（共学）をすすめる上で困っていらっしゃること、知りたいことなどについて世話人がご相談に応じます。お悩みを郵便で事務局までおしらせください。会員以外の方にもお答えいたします。ただし、あまりおいそぎになりませんように。